

2010年7月から9月の活動

夏の子どもプログラム 子ども韓国語教室・ビビンパキャンプ



毎夏恒例の子どもプログラムが今年も行われ、元気な子どもたちがたくさん集まりました。子ども韓国語教室は8月2～3日の二日間行われました。今年のはかたんないさつだけでなく、ハンゲルを書いておぼえることにも挑戦しました。がんばっておぼえて、二日目には表を見なくてもハンゲルをたくさん読めるようになったお友だちもいました。勉強の時間にはチャングをたいたり、ユンノリやチェギで遊んだり、楽しい時間もありました。

ビビンパキャンプは8月9～11日に、昨年と同じ五日市市青少年旅行村(東京都あきる野市)で行われました。在日コリアン、日本人、ダブルの子どもたちがリーダーたちといっしょに、川遊びやキャンプファイヤーを楽しみ、また力を合せてご飯を作り、充実した三日間を過ごしました。

今年プログラムの目玉の一つは、野外での流しソーメン。ペットボトルを再利用しましたが、水を漏らさずに上手くソーメンを流せるよう、リーダーたちはずいぶん苦労し、試行錯誤を繰り返しました。結果は大成功！喜んだ子どもたちは、いつもよりもたくさんのソーメンを食べて、お腹いっぱいになっていました。

今年のプログラムの目玉の一つは、野外での流しソーメン。ペットボトルを再利用しましたが、水を漏らさずに上手くソーメンを流せるよう、リーダーたちはずいぶん苦労し、試行錯誤を繰り返しました。結果は大成功！喜んだ子どもたちは、いつもよりもたくさんのソーメンを食べて、お腹いっぱいになっていました。

関東大震災第87周年記念 追悼合同早天礼拝

1923年9月1日に起きた関東大震災の際に多くの朝鮮人が虐殺された悲劇を心に刻むために、今年も9月1日朝、東京YMCAとの共催により関東大震災第87周年記念追悼合同早天礼拝が捧げられました。この礼拝は震災の翌年に行われた追悼祈禱会に起源をもち、その後今日に至るまで長く続けられてきた歴史があります。2001年からは伝統ある東京YMCAの早天祈禱会と合同し、毎年9月1日の朝に韓日のキリスト者がともに集い、祈りを合わせる貴重な機会となっています。今年は許伯基牧師より恐れるべきお方を恐れない」と題したメッセージを語っていただきました。出席者は、87年前の出来事に思いを馳せ、罪なく奪われた多くの命を心に刻み、過ちを決して繰り返さないことを誓いました。

2010年11月から12月の予定

【東京韓国 YMCA】

- 11/1(月) YMCA 朝餐祈禱会
- 11/18(木) YMCA・YWCA 合同祈禱会
- 11/20(土) YMCA バザー
- 11/29(月)、30(火) 牧会者一泊協議会 / 教会協力委員会
- 12/2(木)～5(日) 南北コリアと日本のともだち展
- 12/12(日) 教会YMCA合同クリスマス

◆連続講座「移住者のリアリティ第4期-レイシズムを考える」

- 11/13(土) 木下ちがや「排外主義運動の系譜と現在-ネオリベラリズムと国家の変容という視点から」
- 11/27(土) 金明秀「ナショナル・アイデンティティと排外主義を規定するもの」
- 12/4(土) 安田浩一「レイシズムの現場を取材して-社会を息苦しくするものはなにか」

◆韓国語講座特別プログラム

- 11/16(火) から全8回 「韓国の中編小説を読む」
- 11/16(火) から全6回 「K-POPで楽しむ韓国語」

【関西韓国 YMCA】

- 11/11(木)YMCA/YWCA 共に祈る集い 於:大阪YWCA
- 12/4(土)生野区民クリスマス 於:中川小学校
- 12/11(土)YMCA 会員クリスマス 於:大阪YWCA

『かけはし』次号は2011年1月発行予定です。

日本語学校 韓国卒業生の集い(同窓会)

今年日本語学校が開校20周年を迎えたのを記念して、5年ぶり2回目となる韓国での卒業生の集い(同窓会)が10月2日、ソウルYMCAで開催されました。

当日は、開校直後の卒業生から今年7月に帰国したばかりの現役大学生にいたるまで、30名の卒業生が集まり、日本から参加した10名の先生・学校スタッフとの久しぶりの再会を大いに楽しみました。卒業生の中には現在日本語教師として働いている人もいれば、帰国後全く使う機会がなかった日本語を10年ぶりに話したという人もいました。

会場を近くの食堂に移して行われた二次会では、少しお酒も入って舌も滑らかになり、懐かしい話で大いに盛り上がりました。今回集まれなかった卒業生にも広く呼びかけ、遠くない将来にぜひまた集まろうという約束が交わされました。

韓国伝統楽器教室 民謡カヤグム講習会

8月21～23日に民謡カヤグム講習会が行われました。

毎年夏に韓国から池成子(チ・ソング)先生をお招きし行われるこのプログラムは、今年で18回目を数えました。近年、韓国各地の民謡を楽譜化し、併せてCDも発表されるという大きな仕事を進められ、韓国全羅北道無形文化財第40号伽倻琴散調保有者の指定も受けられた池成子先生は、ご多忙の中、今年もこのプログラムのために来日され、たいへん熱のこもった指導をしてくださいました。

ベテランの受講生の方だけでなく、今回初めて韓国の民謡やカヤグムに触れた方たちも、池先生から直接の指導を受け、皆さん満足していらっしやいました。

韓国語講座 夏の特典プログラム

7月後半から9月にかけて、韓国語講座では毎年恒例の夏の特別プログラムが全8講座、12クラスで行われました。試験対策、小説講読、朗読、童話、文法、文字と発音など、基礎から応用まで幅広い内容で、100名以上の方が参加しました。

編集後記

今までのYとの関わりとは一味違う作業に参加することになりました。自分とYとの新しい「かけはし」になってくれるといいな。(朴)

第1号にかかわるという貴重な体験に感謝です。Yの活動の広がりにつながるようなものにしたいです。(才)

日本語学校卒業生たちと韓国や台湾で再会し、Yは人が育つ場所、人と人がつながる場所だと再確認しました。(た)

第1号なのにバックナンバーが存在するという不思議。第0号(2010.7発行)ご希望の方はご連絡ください。(べ)

装丁を担当しております。0号に比べて紙面が充実してきました。内容はもちろん、見た目も面白い新聞作りを目指します。(AT)

KAKEHASHI かけはし 2010 Oct. vol.1

発行人：金秀男
発行：在日本韓国YMCAアジア青少年センター

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
 ayc@ymcajapan.org http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/

Follow us on **twitter: @zainichiymca**
 より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。

YMCA 在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
 Korean YMCA in Japan

かけはし

かけがえのない素敵な出会い 大津奈津美 (ビビンパキャンプユースリーダー) ~ビビンパキャンプにリーダーとして参加して~

YMCAの活動はボランティアの皆さんの働きによって支えられています。この夏行われた様々なプログラムにも、学生を中心とした多くのボランティアが参加していただきました。その中からビビンパキャンプのユースボランティアリーダーの感想を紹介します。



contents

- 【プログラム】「かけがえのない素敵な出会い~ビビンパキャンプにリーダーとして参加して」第1面
- 【連載コラム】聖書に聴く(第1回)第1面
- 【連載コラム】今月の人(第1回)「李箱」第2面
- 【YMCAコラム】考える「かけはし」(第1回)第2面
- 【プログラム】連続講座「移住者のリアリティ」第4期レイシズムを考える第1回「日本における植民地主義と人種主義」第3面
- 【プログラム】日韓学生交流会第2弾「日韓学生バーベキュー交流会」第3面
- 2010年7月から9月の活動第4面
- 2010年11月から12月の予定第4面
- 編集後記第4面

聖書に聴く 第1回 韓聖炫 牧師(在日大韓基督教会 西新井教会)

「真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネ福音書8:32)

最近、新聞で大変興味ある記事を読みました。この10年間に日本人の米国留学人数が減少傾向にあるということです。1999/2000年度の4.7万人から2008/2009年度には2.9万人へと4割近く減ったそうです。

同じ時期に、他のアジア諸国の米国留学人数はインド人が4.2万人から10.3万人、中国人は5.4万人から9.8万人、韓国人は4.1万人から7.5万人へと、それぞれ約2.5倍から1.8倍も増えているという統計があります。また、ハーバード大学に2009年度、学部から入学した日本人学生がたった一名しかいませんでした。新聞記者との対談の中でハーバード大学学長は「中国や韓国の留学生に比べ、日本人学生の存在感の無さに言及し、日本人学生へ奮起を促した」と発言したそうです。

せっかく留学しても卒業後の日本での就職がなかなか難しいのかも知れません。しかし、青年たちのチャレンジ精神がなえてしまって、内向化、保守化に向かっているとしたら心配です。現在の社会の閉塞感を打ち破っ

募金にご協力ください
窓口に持参または郵便振替で
00190-4-539049 在日本韓国 YMCA

「YMCA 国際協力募金」

すべての人々が国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくり出すための国際協力・地域奉仕活動のために用いられます。

私は昨年、今年と2年続けてビビンパキャンプにリーダーとして参加しましたが、きっかけはただ単に「韓国が好き」というもので、何か韓国に関わるボランティアをしてみたいと探していたところ、このキャンプを見つけた。今までいくつかボランティアをやったことはありますが、ビビンパキャンプの最大の特徴は「リーダーの自主性が非常に高い」ということ。大まかな流れ以外の細かいプログラムはあらかじめ決まっておらず、毎年リーダーが話し合っていて決めています。初めて参加するリーダーもいれば何年も続けて参加しているリーダーもいるので、様々な意見が飛び交い非常に楽しい時間です。自分たちでキャンプを作り上げているという意識が強いので、それだけやりがいもあります。

キャンプは2泊3日という短い期間ですが、リーダーの仕事はなかなか大変です。子どもたちの保護者代わりとなって怪我や病気がないか常に気を配りつつ、一緒にキャンプを楽しみます。料理や火おこしなど、つつい大人がやってあげたくてしまうものもありますが、子どもたちは自分から進んでやる事が多く、年を経るごとに上手になっている姿を見ると、「成長しているんだなあ」と少し親のような気分になります。

キャンプ中はとにかく大変なのですが、いざ終わってみると「楽しかった」という感想が浮かびます。子どもたちは非常にかわいいですし、自然の中で生活するというのはリーダーにとっても普段体験できないことなので、疲れや大変さを吹き飛ばしてしまうほどの楽しさがあります。そして何よりリーダーとしてのやりがいを感じられるので、キャンプが終わる時に「もう終わってしまうのか」「また来年も参加しよう」という気持ちにさせてくれるのだと思います。

ボランティアはアルバイトのように報酬はありませんが、だからこそそひと味違った体験ができ、報酬の代わりにリーダーや子どもたちとのかけがえのない出会いがあります。ボランティアで得た素敵な出会いを、これからも大切にしていきたいです。

ていくのは何と言ってもこれからの若い世代たちなのですから。

若者たちにはぜひアジアや世界に出かけ、多くを見聞し、友人をつくり、グローバルな世界のかけはしになってほしいと願っています。自由の風を体いっぱいを受けて世界の現実に触れてほしいと思います。今の時代はどのような時代なのか、世界で何が起きているのか、世界の苦しみや悩みがどこにあるのかなど、自由の精神をもっているいろいろな体験することが大切ではないでしょうか。聖書の言葉に根ざした真理とチャレンジ精神が今後の日本の社会に大きな影響を与える程に、クリスチャン青年が多く育つことを願っています。

そのような青年たちとの出会いの場としてYMCAはかっこうの場所でしょう。YMCAの多くのプログラムが青年たちのチャレンジ精神をきつと揺るがすはず。心の中の真理を自覚めさすことで。クリスチャン青年を教会だけではなく、YMCAのようなさまざまな機関と協力しながら育てていくことが、今の日本の教会の急務でもあります。

今月の人 第1回

李箱 (1910-1937)



去る7月24日に、連続講座Cut'n'Mix第3期「韓国併合」100年/「在日」100年を越えて 第7回講座が行われました。この日は、「李箱生誕100年」というテーマで、崔真碩さん(訳者/役者・広島大学教員)が、朝鮮のモダニスト詩人・小説家である李箱(イ・サン)の文学と生涯について、作品の朗読を交えながらお話しくださいました。

李箱は、有名な文学賞(李箱文学賞)に名前を残す「国民作家」として現在の韓国では知られていますが、韓国併合の年に生まれ、朝鮮総督府に勤務した経歴を持ち、そして最期は朝鮮人であるがゆえに東京で客死した、まさに運命のように植民地状況を生きて、天折した文学者であったと崔さんは述べます。

「植民地的近代」が抱える二重性、「駆け足の近代化」が引き起こした葛藤、混沌、混乱そして劣等意識の中で、李箱は過剰で、圧倒的なモダニズム作品を日本語と朝鮮語で残しました。1936年、彼は常に植民地近代と格

闘してきた自らの人生を総括するように東京に来て、神保町(現在の専修大学付近)に下宿をし、東京の街をさまよいました。神田の路上を散策中に「不逞鮮人」として日本の警察に検挙され、思想犯の嫌疑を受け、西神田警察署に拘禁されてしまいます。持病の結核が悪化し、病気を理由に釈放されましたが、その1ヶ月後、4月17日に26歳7ヶ月の若さで生涯を閉じました。

「『剥製になってしまった天才』をご存知か。」これは李箱の小説の代表作品である「つばさ」の有名な冒頭の一節です。神田の路上で日本の警察に呼び止められ、「不逞鮮人」と名付けられ、皮膚が凍りついた瞬間、李箱はまさに剥製になってしまったのではないかと。併合100年を迎えても終わっていない問題がある中、李箱は今もなお私たちに「剥製になってしまった天才」を知っているか?と不吉に問いかけています。と崔さんは指摘します。

神保町に下宿をしていた李箱は、当時ふらりとこのYMCAを訪れたことがあったかもしれません。李箱は何を思っているのか、今の私たちに何を突きつけているのかを聞きながら、彼の作品をもう一度この街で読みなおしてみたくなりました。



李箱について語る崔真碩さん

考える「かけはし」

会員である限り、その理念を伝える、広める使命があります。「かけはし」の復刊にあたり、YMCAそして在日本韓国YMCAについて、もう一度、知り、考えるきっかけになればと思います。第1回として、YMCAについて考えます。

YMCAとは?

YMCA: Young Men's Christian Association キリスト教青年会。その名の通り、キリスト教精神を基盤とし、1844年ロンドンで設立され、青少年の人格向上、精神、知性、身体の調和の取れた発達をはかり、民主的で平和な社会のために奉仕する世界最大の青少年団体です。現在では、あらゆる年代、性別、宗教の人々が関わり、国際的ネットワークを活かし、主に若者の支援を中心に、ボランティアとスタッフの協働で、国際協力事業、各種プログラムイベント、宿泊施設の管理等を行っています。その活動は120以上の国と地域に広がっています。



世界YMCA 同盟の正章

正章に見る理念

中心のPとXは、ギリシャ語で「キリスト」を表す文字の頭の2文字です。開かれた本は聖書で、ヨハネによる福音書第17章21節「すべての人を一つにしてください」というイエスの祈りで、YMCAもキリスト教の教派を超え、国家や人種の隔たりを超えて一つになるという願いが込められています。



YMCAの正章



YMCAの略章

YMCA正章、略章

赤の三角は心(spirit)、知性(mind)、体(body)を表し、この三つの調和こそが若者の健全な育成に必要な不可欠で、その発達のために活動することを意味します。

YMCAの今日的意義

今、若者に元気がないということが当たり前のようになっています。それは社会に対する無気力、無関心と言い換えることができるかもしれません。しかし、若者が無気力、無関心である社会が健全であるはずがありませんし、そのような社会にこれからの発展は望めないでしょう。そこで若者の健全化は社会にとっても最重要課題の一つであります。

現代において、人々の生活は多様化し、情報化が進み、生活の個別化が進んでいます。その中で人と社会のつながりが希薄化しています。極端に言えば、人や社会とのかわりを一切持たず生活することが可能です。しかし、本来、人は人や社会とのつながりの中で生き、自分の社会的存在意義を見出してきました。逆に言えば、人は社会と切り離されることで社会的存在意義を見失うこととなります。自分の社会的存在意義がわからないうままでは、社会に対して無気力、無関心にならざるを得ません。

そこで今、求められているのは、人が社会とつながることで生まれる社会的存在意義の提示ではないでしょうか。

YMCAは健全な青少年の育成を目的とした中で、国際的なネットワークを持ち、あらゆる年代、性別、宗教を超えて活動をしています。その活動を通じて、社会の一員としての意識を持つことができるでしょう。また、その中で、ボランティア精神、リーダーシップを養うことはまさに自分の社会的存在意義の発見に他なりません。

つまり、YMCAの活動は現代社会における自己の社会的存在意義の発見の場となりえる、また、ならなくてはならないのだと思います。

いま、YMCAは人と社会の「かけはし」となることが求められているのです。(第2回は、在日本韓国YMCAについて考えます)

移住労働者と連帯する全国ネットワーク/在日韓国人問題研究所(RAIK)/在日本韓国YMCA主催 連続講座「移住者のリアリティ」第4期

レイシズムを考える 第1回 李孝徳「日本における植民地主義と人種主義」



連続講座「移住者のリアリティ」は在日本韓国YMCA、移住労働者と連帯する全国ネットワーク(移住連)、在日韓国人問題研究所(RAIK)の共催で2009年5月に始まりました。

この講座を始めた当初の目的は、日本に住む外国にルーツを持つ人々が社会にどのように受け止められるのか、また移住者や彼らを取りまく日本社会の双方にとって、どのような課題があるのかを探ることでした。「多文化共生社会の実現」を目指すYMCAはそれらの課題を広め、多くの人と共有したいと思いました。外国人の「問題」をマイノリティ側から捉えなおす、すなわち「境界から考える」ことを第1、2期のテーマとしました。

一方、ここ数年特定の外国人個人や国籍・民族を指してあからさまな差別発言や排外主義を表明し、直接行動に出るグループが現れてきました。実は、このYMCAも何度かその対象になっていま

す。講座の企画メンバーで話し合い、第3、4期のテーマを「レイシズムを考える」として、人種問題、排外主義、差別に向き合うことにしました。現在までの参加者は1・2期8講座185名/3期3講座168名です。

10月2日、李孝徳さん(Lee,Hyoduk、東京外国語大学教員)を講師に迎え第4期がスタートしました。参加者はスタッフ合わせて28名。学生YMCA関係者も目立ちました。レイシズム概念の形成と普及、また国外での人種問題を日本国内のエスニックマイノリティへの問題と比較・連結する視点の欠落、植民地問題が生み出した人種問題としての視点の欠如について語られました。その場で引き続き行われた懇親会では講師へあるいは参加者同士の応答が熱く続きました。

次回以降のテーマは4面を参考にしてください。いずれも土曜日18:30からです。



日韓学生交流会 第2弾 日韓学生バーベキュー交流会



今年5月開催された日韓学生交流会に続いて、10月10日、日韓学生バーベキュー交流会が葛西臨海公園で開かれました。前日からの雨が朝まで続いたにもかかわらず、前回の交流会より多い日本の大学生14名、韓国からの留学生12名が集まってくれました。

バーベキュー場に到着すると天気も晴れ、大きく二つのグループに分かれてバーベキューを始めましたが、最初は火をおこすのが難しくかなり苦労しました。しかし、日本の韓国料理店で働く参加者もいて、最後にはおいしくバーベキューを食べることができました。バーベキューを終え、小さなグループに分かれて葛西臨海水族園に行ったり、お話をしたり楽しく自由時間を過ごしました。最後には連絡先を交換して、写真を撮りながら、再会の約束をしあっていました。

今回も前回と同じボランティアの寺田瑞穂さんと崔秀任さんが準備を担当してくれました。他にもビビンパキャンプボランティアリーダーたちも荷物運びなどを手伝ってくれました。新しいボランティアの参加もあり、これから日韓学生交流会が学生たちの交流の場として定着することが期待されます。



募金にご協力ください 「オリーブの木キャンペーン」 パレスチナの農民の土地を守り、平和を築くためにオリーブを植樹する東エルサレムYMCAのプログラムを支援します。1口3000円で1本の苗木を植樹できます。 窓口: 持参または郵便振替で 00190-4-539049 在日本韓国YMCA